

## 教育改善スキル修得オンラインプログラム 第三弾「FD 活動デザイン編」の概要

An Overview of Educational Reform Skill Learning Online Program:  
3<sup>rd</sup> Course on Designing Faculty Development Activities

鈴木克明<sup>\*1</sup>・喜多敏博<sup>\*1</sup>・平岡斉士<sup>\*1</sup>・合田美子<sup>\*1</sup>・山下 藍<sup>\*1</sup>・宮下和子<sup>\*1</sup>・中島奈美<sup>\*1</sup>  
Katsuki Suzuki<sup>\*1</sup>, Toshihiro Kita<sup>\*1</sup>, Naoshi Hiraoka<sup>\*1</sup>, Yoshiko Goda<sup>\*1</sup>, Ai Yamashita<sup>\*1</sup>, Kazuko Miyashita<sup>\*1</sup>,  
Nami Nakashima<sup>\*1</sup>

<sup>\*1</sup>熊本大学教授システム学研究センター

<sup>\*1</sup>Research Center for Instructional Systems, Kumamoto University

<あらまし> 本センターが提供するオンライン研修「教育改善スキル修得オンラインプログラム」の第三弾「FD 活動デザイン編」の無料版・有料版の公開を開始した。FD 活動デザイン編は、大学でFD活動を推進する教職員を対象とするオンライン講座で、当センターのFD活動支援の実績と教育学の知見をもとに5つのモジュールで構成したものである。本報告では、モジュール2~4での提案7つずつを紹介する。

<キーワード> インストラクショナルデザイン、FD、高等教育、教育改善スキル

### 1. はじめに

熊本大学教授システム学研究センターは、2018年度に「教授システム学に基づく大学教員の教育実践力開発拠点」として文科省教育関係大学間共同利用拠点としての認定を受け、それ以来、様々な活動を展開してきた。その一つであるオンライン研修「教育改善スキル修得オンラインプログラム」の第三弾として各大学のFDを担当する教職員を対象とした「FD活動デザイン編」の無料版・有料版を構想した(鈴木ほか2021)。eラーニング専門家養成のオンライン大学院教授システム学専攻での教育実践とその背景にあるインストラクショナルデザイン(以下、ID)を研究してきたことを背景に、これまでの多くの大学におけるFDが義務化を受けて外部講師を招聘する定例イベントに留まっていると考えられる限界を意識し、次世代の大学づくりに貢献できるFD活動をデザインしていくことを目指した内容を模索したものである。

本発表では、「FD活動デザイン編」の構想としてモジュール全体とモジュール1で取り上げた5つの物語を報告した鈴木ほか(2021)の続報として、モジュール2~4での7提案を紹介する。

### 2. 各モジュールでの7提案

「FD活動デザイン編」では、「授業デザイン支援編」と同様に5つの物語でFD活動のバージョンアップが求められていることをアピールするモジュール1「FDはこのままでよいのか」に続き、バージョンアップの視点を3つのモジュールに分けて7つずつ提案した(表1~3参照)。

モジュール2では、FD活動の評価指標(KPI)設定にかかわる提案を7つにまとめ、FD活動が目指す目的を合意して成果をアピールする方策をまとめた。カークパトリックの評価の4段階モデルや先進事例調査の成果(鈴木ほか2011)な

どを参考に、その達成度を明らかにするための提案とした。モジュール3では、年1回の講演会としてイベント化しているFD活動を超える7つの提案をまとめ、KPIを達成するための手段をより幅広く捉える手助けとした。手ぶらで参加できる研修や「お勉強」で終わってしまう研修を超えて行動変容に直結させる研修方法(鈴木2015)を反映した内容にした。モジュール4では授業改善以外の学習支援の方策を7つの提案にまとめた。コロナ禍によるキャンパス閉鎖でオンライン学習を体験した学生を再びキャンパスに呼び戻した後の授業改善以外の学習支援には、アカデミック・アドバイザーと学習支援専門職とが連携し、ラーニングコモンズを中核とした学生による活動を充実していく必要があることを提案した。

### 3. おわりに

FDが義務化されて長い年月が経過し、プレFDも努力義務化された。大学全体としてのFD活動が組織的に計画・実行され、教育の質を高める中核的な機能を持つようになり、その組織に新任教員が入っていく循環ができるよう、本取組がFDを担当する教職員の一助になればと願っている。

#### 参考文献

- 鈴木克明(2015)『研修設計マニュアル:人材育成のためのインストラクショナルデザイン』北大路書房
- 鈴木克明・喜多敏博・平岡斉士・合田美子・長岡千香子・山下藍・張暁紅・宮下和子(2021.10)教育改善スキル修得オンラインプログラム第三弾「FD活動デザイン編」の構想. 日本教育工学会第39回秋季全国大会(オンライン)発表論文集, 27-28
- 鈴木克明・美馬のゆり・山内祐平(2011.3)大学授業の質改善以外の学習支援にどう取り組むか:学習センター関連資格制度についての米国調査報告. 日本教育工学会研究論文集 11-1:181-186

表1：FD活動のKPI（評価指標）：FD活動をアピールするための7つの提案（モジュール2）

7つの提案	内容
1. FD活動の成果を多段階で捉える	FD活動への参加者・参加率（レベル0）を超えて、参加者の反応（1）、学習成果（2）、受講後の行動変容（3）、活動のインパクト（4）でも捉える
2. アンケート調査で成果をアピールする	アンケート調査は参加者の反応を捉えるだけでなく、主観的な学習成果や行動の意図などを捉えるツールとしても有用である
3. 受講者の学習成果をアピールする	受講者の学習成果は暗記志向のテストではなく、FD活動で作成した授業計画や授業で使用する教材などの成果物で確認し、学習成果をアピールする
4. 学習成果が得やすいようなFD活動に再設計する	実践的で受講者の授業づくりに直結する研修内容を取り上げ、具体的な成果物を受講者それぞれが手にできるようなFD活動に再設計する
5. 受講後の行動変容でアピールする	FD活動で学んだことが行動変容につながり、授業が改善された証拠を集めることでFD活動の実績をアピールするという視点を持つ
6. 行動変容を促すようなFD活動に再設計する	受講後の行動変容をもたらすためには、授業実践に直結する内容を取り上げて、一般論ではなく参加者それぞれが担当している授業をどう変えるかを扱う
7. FD活動の認知度向上でアピールする	FD活動が学部や大学全体の教育活動の質向上に貢献している証拠を集めて成果をアピールすることで、より多くの予算・人員・施設などを入手する

表2：FD研修のバージョンアップ：年1回の講演会を超えるための7つの提案（モジュール3）

7つの提案	内容
1. 事前質問付外部講師講演会	外部講師による講演に先立って演者への質問を集めておき、講演では質問への回答を含めてもらうように事前に依頼する
2. 事前資料付講演会（反転授業型）	講師の著作や過去の研修動画などの既存情報を指定して受講者に講演会前にアクセスしてもらい、事前に集めた質問への回答や応用的課題に研修時間を充てる
3. 外部講師招聘によるワークショップ	いわゆる講演型ではなくワークショップ型の研修を依頼し、授業改善に直結するスキルを習得したり授業計画を相互に練り上げたりする
4. ワークシート等を使った自前のワークショップ	定評があるワークシートなどの利用許可を得て使うことで敷居を下げ、外部講師に依存しないワークショップを自前で開催する
5. 「まな板の上のコイ」方式のFD研修	学内の実践者に事例提供を依頼できる場合には、互いに学び合う研修の素材として参加者が検討を加え、事例提供者も次にすべきことを学べる機会にする
6. 活動計画の作成と確認を行うFD	研修で学んだことを応用するアクションをいつまでに何をやるかのリスト作成で整理し、一定期間をあけて予定通りに実現できたかを確認する機会を設ける
7. FDサークルを常設する	年1回のイベントを超えてより非公式で継続的な活動を支援する制度を設ける

表3：ラーニングcommonsの活動を設計する：授業以外の学習支援の7つの提案（モジュール4）

7つの提案	内容
1. アカデミック・アドバイザー制度でワンストップサービスを機能させる	全学生と二人称の関係で接する教職員を配置し、定期的に相談の機会を設定するとともに、相談内容に応じて各専門家につなぐ体制を整える
2. 学習支援専門職をラーニングcommonsに配置する	授業以外の学習支援を企画・運営する責任者としての専門知識を有する教職員を配置し、図書館を中核とした学習支援の仕組みを構築・活性化
3. 学び方の基礎スキルを学ぶ機会を提供する	全学生に学び方の基礎を学ぶ機会を提供するために、必修の入門科目や研修イベント、チュータリングなどを組織化し、学生の自律性を高める
4. チュータリングの基礎スキルを学ぶ機会を提供する	学生によるチュータリングを支える上級生を養成するために、また学生相互の教え合いを促進するために、チュータリングを学ぶ機会を設ける
5. ドロップインチュータリング	予約不要のチュータリングの機会を時間割に従って設定し、過年度に単位を取得した上級生でチュータリングを学んだ学生等に担当してもらう
6. チューター研修の認証を受ける	チュータリングの質を担保する制度を活用し、内外にアピールするために、チューター研修の認証制度に申請・認証を受け、それを維持する
7. ポートフォリオで自己アピール	学習支援に係る個人あるいは組織としての活動をポートフォリオにまとめ、定期的に省察・改善するとともに、実績をアピールできるようにする